



駐屯地司令新年挨拶

第4施設団長兼ねて
大久保駐屯地司令

陸将補 吉春 隆史



新年明けましておめでとうございます。
林大久保自衛隊協力会会長、坂下陽融会会長、松田大久保駐屯地桃友会会長、土居45会会長をはじめ、大久保駐屯地協力諸団体の皆様におかれましては、心穏やかに令和5年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

この度、令和4年12月23日付で第4施設団長兼ねて大久保駐屯地司令に拝命されました、吉春 隆史です。

日頃より大久保駐屯地へのご理解とご協力、隊員への温かい激励、更には防衛基盤の育成強化にご尽力頂く等、我々の活動に格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます。

地域から信頼される駐屯地を目指して日々の隊務・訓練等に励んで参りますので、よろしくお願い致します。
さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症に加え、中国の台湾への更なる軍事的圧力、年間を通じた北朝鮮の相次ぐ弾道ミサイル等の発射、ロシアのウクライナ侵攻、そして年末の安保関連3文書の改定等、我が国の安全保障環境が劇的に変化し激動の年でした。また、氣候変動による豪雨災害など自然災害へ実効的に対処することが求められています。

この様な中、皆様のお陰を持ちまして我々大久保駐屯地は、カンボジアPKOから30年の節目の年を迎えた昨年に、第7施設群を主体にカンボジア王国軍に対して約1カ月の現地の能力構築支援の任務を完了しました。

また、各部隊は、中部方面隊の部隊のみならず、全国の陸海空自衛隊との協同訓練に加え、米軍との協同訓練も行い、施設職種特有の多種多様な運用と技術を駆使して任務を遂行する能力及び中部方面隊施設科部隊の総本山としての地位・役割を有する大久保駐屯地の機能の充実に努めて参りました。

今年の干支「癸卯」は、「これまでの努力が花開き実り始めること」と言われ、大きな飛躍・向上の年です。

より一層隊務に励み、あらゆる事態に即応し、任務を完遂できる力を更に蓄え、地域の皆様と共に更なる飛躍・発展の年となるように取り組んで参りますので、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年となりますことを心祈念申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

4 協力団体 会長 新年挨拶



発行：大久保自衛隊協力会
陽融会
大久保駐屯地桃友会
45会
編集：第4施設団本部
第1科広報班
印刷：進見堂印刷

駐屯地司令要望事項
地域から信頼される駐屯地
紙面紹介
1 面
・駐屯地司令新年挨拶
・4 協力団体会長新年挨拶
2面・3面
・部隊長新年挨拶及び各部隊訓練等記事
4 面
・部隊長随筆
・最先任の一言
・生活体験
・定年退官者紹介
・編集後記



会長 林 勉

新年明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、令和5年の新年をご家族お揃いで健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。
皆様方におかれましては、令和5年の新年を「ご家族お揃いで健やかに迎えの事とお慶び申し上げます」
皆様の心も早5年を迎えることとなりました。
人々が美しい心を寄せ合い、明日への希望と、新しい文化を生み育てるという意味の込められた「令和の時代」とは裏腹に、我が国を取り巻く環境は昨年、大変厳しくなってきました。
北や西から脅威のエスカレート、災害の多様化、経済の不安定に加えて物価の上昇等、そしてウイリス拡散など、日常生活にも大きな影を落としています。
また、世界を見て新しい冷戦と云うべき状況にあり、不安定な時代となってきました。
それらの状況の中で、常日頃よりあらゆる訓練に励んでおられる隊員の皆様方に敬意を表する次第であります。
新型コロナウイルスが猛威を振るった3年間はありましたが、やや終息の兆しが見え、各方面において色々な行事も開催されている今日、協力会としてもこれら厳しい中において今までも増して協力体制を強化し、自衛隊に対しての理解と協力の輪を強めて参らなければならないと思うところでもあります。
会員の方々や、地域の皆様方におかれましては、本年も何卒よろしくお祈りし、年頭に当たってのご挨拶と致します。



会長 坂下 弘親

隊員の皆様、明けましておめでとうございます。
日々、日本の安全、安心のため厳しい訓練に励まれておられる事に感謝申し上げます。
日本を取り巻く状況は、北朝鮮の異常なミサイル発射や中国による尖閣諸島への領海侵犯、ロシアからウクライナへの軍事侵襲等、世界情勢は何か起こっても不思議ではない状況です。
多くの国民が戦火にさらされ、悲惨な状況が放映されているのを見るにつけ、早くウクライナ戦争が終結し、平和な世界になる事を願って止みません。
また、3年にわたるコロナ禍、世界中が翻弄され、日常生活がままならず市民の皆様が楽しみにしていた大久保自衛隊の花火大会や創立記念日の事業も取り止めが続いていましたが、昨年は久しぶりに実施されて本当に良かったと思っております。

今後とも、日本の安全、安心に寄与される事を願ひ、また、隊員の皆様のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。



会長 松田 篤彦

新年あけましておめでとうございます。
皆様と共に新年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。
昨年は、新型コロナウイルスウイリス感染症の影響により駐屯地の各種行事も従来通りの開催とはいかず、弊会の活動も屋外での清掃に終始しました。
今年、「癸卯（みずのとう）」で「成長する年」と言われています。
弊会も創立50年となる年でもあります。
活気ある部隊の成長を、微力ではありますが、更なる応援を惜しまずに行って参りたいと考えております。

どうか隊員の皆さん、日本のため、社会のため、家族のため、仲間を信じて隊務に励んでいただきたいと思います。
今年が皆様にとって、実り多き年となりますよう、お祈り申し上げます。



会長 土居 一豊

令和5年の新春を迎えるにあたり、皆様のご健康と御多幸を心からお祈りいたします。
北朝鮮の度重なるミサイル発射、中国とロシアの艦船と航空機による我が国を周回する示威活動など、安全保障環境が一段と厳しさを増し、我が国にとって重大な脅威となっています。
ロシアによるウクライナ侵攻が示す通り、日本周辺で何時如何なる不測の事態が発生しても不思議ではない時代を迎えています。
一方、国内では毎年発生する大規模な自然災害に迅速に対応する部隊の活動は、日頃からの鍛錬の積み重ねであり心強い次第です。
新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見通せない中、ひたすら訓練を重ね、我が国の防衛に邁進されている隊員皆様に敬意と感謝を表しますとともに、令和5年が明るい年となりますようお祈りし、新年のご挨拶と致します。

今年が皆様にとって、実り多き年となりますよう、お祈り申し上げます。

部隊長新年挨拶及び各部隊訓練等記事



千葉 1 佐

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、第7施設群に対し格別なるご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。本年、第7施設群は創設50周年を迎えることができました。地域の人々に支えられ、諸先輩方の努力の積み重ねにより今の部隊があると感じ、大変感謝しています。あと半世紀、創設100周年に向けて隊員と共に汗を流し、次の世代に良き伝統を継承していきます。本年もどうぞよろしくお願いたします。



井門 1 佐

皆様、おことうさんどす。これは、祇園の舞妓や芸子さん達が使う事始めの挨拶で、「お事多さん」、お忙しく繁盛で何よりといった意味の言葉だそうです。令和5年は干支で言う癸卯（みずのと）の年となります。これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年となるようです。業務隊は、本年も商売繁盛、よりよいサービス提供に向け邁進してまいります。よろしゅうお頼もうします。



障害処理(爆破準備)



傷病者の救護



官舎「網戸の取替」



漫画喫茶「茗道」

第7施設群

第7施設群は、令和4年9月、日中の残量が厳しいものの朝夕には涼しさを感じる長田野演習場及び青野ヶ原演習場において第381施設中隊及び衛生班に対して中隊等訓練検閲を実施しました。第381施設中隊は、当初上陸した敵に対し、攻勢作戦を行う師団を支援するため障害処理を実施し、その後、他演習場に機動展開し、指揮所用簡易掩盖掩壕(2.5LP)等の構築を行いました。また、衛生班は、師団を直接支援する施設群内の衛生班の行動として收容所の開設、運営を行いました。中隊等訓練検閲開始直後は晴れ渡っていたものの、第381施設中隊の攻撃支援時は、あたりに濃霧が立ち込め、敵から身を隠すには絶好の攻撃日和となり、気候にも恵まれた滑り出しとなりました。朝夕の激しい寒暖差の中でも隊員の士気は高く、これまで練成訓練を積み重ねてきた成果を発揮すべく、小隊長、分隊長等は、任務、行動に対応するため隊員によく指示・指導し、衛生班は、大量の傷病者が発生する状況においても、最後の一人まで救う「献身」の気持ちをもつて、任務に邁進し、中隊及び班が一丸となり、与えられた任務を完遂しました。

大久保駐屯地業務隊

大久保駐屯地業務隊は、日夜厳しい任務を遂行する部隊・隊員の皆様日々の暮らしにおいては「ホテルのように快適な生活」を提供できるようサービスの改善向上を図っています。令和4年度は、また食べたくなるような食事献立への挑戦、厚生センターの活性化(漫画喫茶、デリバリークラブ、多彩な店舗誘致等)、隊員浴場の改修(内装、サウナ復活)、生活施設舎・外来施設の整備、お住まい点検に基づく宿舍整備の改善等について「できるものから速やかに実現」を目指し活動しています。他方、これらを裏付ける上級部隊の計画や予算の配当は、ほぼ無いのが実情です。このため、業務隊では、毎週「サービス向上委員会」を開催して、認識を共有するとともに、縦割りを排し、皆で知恵を絞って取り組んでいます。当隊は、今後も斬新かつ魅力的なサービス提供に挑戦してまいります。一方で、厚生センター店舗等は皆様のご利用が存続の鍵です。活性化のため、積極的なご活用をお願いいたします。また、皆様は他駐屯地等からのお客様をもてなす観点では、我々同様にホストの一員であり、共に「ホテル大久保」の精神でホスピタリティ溢れる日本一の駐屯地を目指して行きましょう。



林田 2 佐

旧年は、第3施設大隊に対する多大なるご支援を賜り心より御礼申し上げます。今後も皆様に信頼される部隊であり続けるため、隊員一人一人が明るく、楽しく、前向きに、各種任務を完遂できる部隊を目指して、日々訓練に励んでまいります。本年が皆様方にとりまして、幸多き年となりますことを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



児嶋 3 佐

新年あけましておめでとうございます。皆様からのご支援ご協力があって、大隊長として初めての新年を無事に迎えることができましたことを、心から感謝申し上げます。今年も、皆様に恩返しができるよう、「プラスアルファの心遣い」に着意して支援業務を行います。小さなことでも、被支援部隊が「うれしいな」と心がほっこりするよう、そんな気配りを大切にしていきたいです。今年も第104施設直接支援大隊をどうぞよろしくお願いたします。

第3施設大隊



編成完結式



道路拡幅作業



観閲式態勢完了



観閲行進(車両)

第3施設大隊は、令和4年10月中旬爽やかな秋空のあいび野演習場において、令和4年度師団訓練検閲を受閲しました。本検閲においては、交戦装置(バトラー)を使用し、より実戦に近い環境下で、諸職種協同による作戦行動を実施しました。検閲受閲に先立ち、大久保駐屯地において各中隊に対する隊容検査を実施し、人員及び車両の準備状況、各部隊装備火器の取扱い及び第一線救護の練度等の確認を行いました。師団訓練検閲受閲間、大隊長を核心として各中隊長は各任務遂行にあたり、施設技術能力を最大限に発揮し、また、各隊員一人一人は自分に負けることなく黙々と任務を遂行し、大隊の任務を完遂しました。本年も、国民の生命・財産を守るべく、より一層訓練に励み、我が国の平和と独立を守り抜くという使命を果たすため、日々精進してまいります。本年もよろしくお願いたします。

第104施設直接支援大隊

第104施設直接支援大隊は、令和4年10月30日、桂駐屯地において実施された『桂駐屯地創立68周年記念行事及び中部方面後方支援隊創設18周年記念行事』に参加しました。記念行事には大隊から56名の隊員が参列して中部方面後方支援隊の創設を祝すとともに、団結の強化及び士気の高揚を図り、行事の成功に寄与しました。当日は、天候に恵まれ、さわやかな秋晴れのもと約6千名の来場者で賑わいました。来賓として、国会議員の方々をはじめ、各市区町村長及び各協会の会長をお迎えし、観閲式・観閲行進においては、大隊長児嶋3佐の指揮のもと大隊の威容を示しました。また、式典本番の前日に行われた総合予行では、練成の成果を確認するだけでなく、「募集広報の日」として募集対象者等に自衛隊に対する理解を深めていただく一端を担うことができました。大隊は、引き続き地域住民との交流を深め、防衛基盤の更なる充実及び募集広報に寄与していく所存です。

第 3 0 7 ダンプ車両中隊

新年明けましておめでとうございます。今年も第307ダンプ車両中隊のご協力、ご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

昨年中は、感染症対策を常に万全に整え、自信と誇りを堅持すべく、各種事態及び状況に応じて、訓練を行い、練度を積み上げて参りました。皆様方の大きなご支援を背に、本年も中隊一丸となつて免のよう一層跳躍できるように邁進する所存です。

引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



木村 3 佐

第307ダンプ車両中隊は、令和4年10月中旬から、令和4年度捕虜等取扱訓練に参加し、方面被拘束者収束所の障害構成を実施して、本訓練の成果獲得に寄りました。

過去の教訓から、本施設構築には訓練開始以前より第2小隊長の石田3尉を筆頭に各分隊長等が試行錯誤を繰り返しながら、必要な資器材を見極めつつ如何に有用な施設を構築できるかを追求してまいりました。

2夜3日にわたる第2回小隊長計画訓練の状況下で昼夜を通して実施された障害構成は、被支援部隊の活動様相を理解し、施設支援を具体化及び使用部隊のニーズに合致した施設構築を所命の時間内に終えることができてまいりました。

引き続き、ダンプ車両操縦技術を向上させることは勿論、各使用部隊のニーズに合致した任務の遂行を達成すべく、連携及び献身を念頭に日々識能向上の研鑽を継続していきます。



被拘束者収容施設の構築



完成した被拘束者収容施設

第 1 0 2 施設器材隊

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、団訓練検閲を受閲するとともに、その正統たるに、団統制の下、総合正訓練を実施しました。

今年は創隊50周年を迎えるとともに、被支援部隊の能力が最大限発揮できる環境構築を重視し、間通じて図って参ります。

引き続き、皆様の御理解と御協力のもと、事に臨んで危険を顧みず、身を以て責務の完遂に努めます。

皆様の御健勝を祈念申し上げます。



川田 2 佐



応急出動準備



駐車場の確保

令和4年10月下旬から同年11月中旬までの間、大久保駐屯地及び長池演習場において団訓練検閲に係る総合正訓練を実施しました。

本訓練は、後期長池演習場整備を含めた総合正訓練として実施し、器材隊から約100名が参加して方面の器材隊に任ずる施設器材隊の行動を演練しました。

当初、「応急出動準備(糧食・燃料・水・器材等の準備)」を大久保駐屯地において完了するとともに、長池演習場へ移動し、長池MA開設支援の準備として「北外周道の拡張」「プレハブの解体による駐車場の確保」及び「橋を架けるための訓練場新設」を実施しました。

寒暖差が激しい中で総合正訓練となりましたが、参加者全員が訓練に真摯に取り組み、新設プレハブ対策を含めた健康管理及び安全管理に留意し、任務を完遂しました。

第 4 施設 団本部付隊

新年明けましておめでとうございます。

昨年も第6・7波を迎える等、新型コロナウイルスは終息が見えない状況ではありますが、駐屯地の各種行事等も徐々再開していく中、皆様から変わらぬご支援、ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

団本部を支援する団本部付隊として、本年も隊一丸となり任務に邁進する所存であり、引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



中田 1 尉



統裁部維持運営支援



通信網の構成(維持・運営)

第4施設団本部付隊は、令和4年11月下旬から約10日間、昼夜間の寒暖の差の激しい中、計6箇所に及ぶ演習場において、令和4年度第3回団訓練検閲の統裁部維持運営支援を実施しました。

統裁部支援は、各科の運営・機能維持及び管理支援等を実施し、少数ではあるものの各隊員が奮闘し支援することができました。

団システム通信班の検閲では、班長(鈴木2尉)が8月に上番して初めての検閲で、日頃の練成成果を発揮する場であるとともに、班長の指揮及び統率力を発揮すべく周到な準備を行い、検閲を受閲し、各隊員一人ひとりが不眠不休に任務に取り組み、「一味同心」となり、日頃の練成成果を十分に発揮して、1件の事故もなく任務を完遂しました。

団訓練検閲統裁部支援及び団通信班の検閲受得た経験を糧とし、更に団本部付隊員一同邁進していきます。

第 3 9 7 会計 隊

新年明けましておめでとうございます。

昨年3月14日付で着任いたしました、追沼3佐です。

部隊長として、皆様に信頼され、また、駐屯地所在部隊が任務遂行する基盤を確立するため、平時・有事ともに会計支援ができる部隊を育成するように日々精進して参ります。

本年も皆様方のご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



追沼 3 佐



応急出動準備



応急出動準備

第397会計隊は、令和4年10月下旬に方面会計隊会計実務競技会に参加しました。

本事業の目的は、隊員個々及び部隊の会計実務能力の向上を図るとともに、部隊の団結及び士気の高揚に資するものです。

実施要領は、幹部・陸曹・陸士の区分に分け、試験方式で統制された時間の中で競い合います。

第397会計隊は、毎日実施している補職の会計業務に意地とプライドを持ち、練成した成果を発揮して会計実務競技会に臨みました。

部隊の成績は、15個会計隊中、第4位の成績で、惜しくも表彰を逃しましたが、本競技会を終えて、会計隊員としての齊一な識能の向上を図ることができました。

引き続き、国民に信頼され、真に必要とされる会計隊として日々邁進していく所存です。

第 3 1 8 基地通信中隊大久保派遣隊

新年明けましておめでとうございます。

旧年はお支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

基地システム通信たる内線電話、システム等が必要な時期と場所が少なくなるよう、引き続き通信技術の向上に努めてまいります。

ニーズに即応し、信頼できるシステム通信の提供のため、派遣隊員9名、一丸となり常態の維持運営に尽力する所存です。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



尾崎 3 尉



端子盤の点検・操作



野外システム通信の構成

第318基地通信中隊大久保派遣隊は、令和4年11月に令和4年度方面総監直轄部隊訓練検閲を受閲しました。

検閲では基地部隊から野外部隊へ増強要員を転用し、基地・野外連携を行いました。

野外に増強要員として参加した隊員は新たな環境での基礎動作を習得するための訓練から参加し、基地器材とは全く違う器材を操作できるよう演練して野外部隊の一員として活躍しました。

また、駐屯地の通信を確保するため派遣隊員についても日頃の練成成果を発揮し通信組織の構成・維持・運営に努めました。

派遣隊は、電磁波・サイバー等の新領域にも当り前に対応できるよう演練し、基地システム通信と野外システム通信ともに構成・維持・運営できるよう精進し、所在部隊の指揮の命脈の通信確保に貢献していきます。

第 3 後 方 支 援 連 隊 第 1 整 備 大 隊 支 隊 整 備 隊

新年明けましておめでとうございます。

平素から、第3後方支援連隊第1整備大隊施設整備隊にご理解、ご支援いただきありがとうございます。

昨年は、師団の施設器材を整備する担任部隊として技術の錬磨に努め、皆様方には、本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



石垣 1 尉



予防整備



保安検査

第3後方支援連隊第1整備大隊施設整備隊では施設器材の予防整備及び故障整備を実施しています。

今年度3四半期の予防整備器材は07式機動支援機、中野D-1等がありました。

予防整備では、器材を常に良好な状態に維持して、故障を未然に防ぐ為に点検及び規則に基づいた部品交換等を実施します。

予防整備の後は保安検査を実施します。

保安検査とはブレーキの検査や灯火類、警告音、排気ガスの測定を行い、保安基準に適合したかを点検します。

また、故障整備では故障器材を検査して故障部分特定し、必要な場合は部品を請求して整備をします。

特に故障整備は様々なパターンがあり、知識や経験を必要とします。

9月末に新配置された隊員も含めて整備技術の向上に努め、支援部隊の任務遂行のため整備業務に励んでいきます。

部隊長随筆 先任の一言



大久保駐屯地業務隊 1等陸佐 井門 秀治



第307ダンプ車両中隊 陸曹長 大東 晋也

業務隊は、総務、郵政、外来、演習場管理、営繕、木工、電気、ボイラー、輸送、燃料、糧食、補給、厚生、共済、宿舎、衛生、心理等、実に様々な部門があり、自衛官以外に事務官、技官、共済主事、再任用、非常勤の隊員が所属しています。

普段は黒子のように表舞台には出ませんが、ある者は煤にまみれ、ある者は排水に浸かり、自分の時間を犠牲にしつつも、全隊員がおもてなしの精神で思いを一つに頑張っています。(自衛官としての)

我々は「士魂商才」(自衛官としての精神と商売の才能を併せ持つこと)を目標に頭のスイッチを切り替えながら、サービスマンとして日々精進しています。

皆様の当り前の日常生活は、実は彼らの献身、誠意の上に成り立っていることを心の隅で認識いただけたら幸いです。

その見返りに特別なことは何も要りません。美味しく食事し、施設・物品の愛護節用に努め、何より皆様が居心地よいと感じていただければ、それが我々の一番の報酬となります。

また、そうした「おもてなし」や「ありがたみ」の相互精神が定着することでSDGsのように持続可能で快適な勤務環境を実現できると信じています。

今後も、ご愛顧のほどよろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症の脅威により生活様式が一変し、「ウイズコロナ」という言葉やマスクの着用が定着しています。国内では日々規制の緩和により海外渡航の解禁やイベント開催などの明るい知らせを聞く機会も多くなりました。

この間、我々第307ダンプ車両中隊は国土防衛という主たる任務を遂行する実力を堅持すべく、感染症予防を強化しつつ、相次ぐ規制強化においても多岐にわたる各種訓練に動員して参りました。

そのような中で、私は、過酷な状況下(制限下)において、目標を達成することが最も重要であると感じていました。

幾多のイベントや行事が中止となったコロナ禍では、終息の兆しが見えず不確実性が増す現代で目標を喪失する若手ビジネスパーソンが増加しているそうです。

この状況は自衛隊内でも同様で、多くの若年隊員は目標を見出せず、就職活動をするにしろ、陸曹を目指すにしろ、自分がどうしたいのか、どのような陸曹になりたいのかというビジョンがなくなると感じています。

そこで私は若い隊員に対し、「何か一つ楽しみを持ちなさい。」ということをお伝えしています。

それが小さな事であろうと、自分の心の拠り所になり、自分の目標になり、仕事の効率を良くする事につながり、最終的には自分の将来設計の基礎となると思うからです。

目標はいつかなくなるものです。達成する、諦める、さらには目標そのものが奪われる、理由は様々ですが、目標は必ず失われるのが大前提です。

個々が大きからず多く多くの目標を絶えず持ち続け、確立させることで、新しい目標に次々とチャレンジする活力となり、さらに自分の目的が実感できれば、過酷な状況の中でも充実した日々を過ごすことができると思っています。

木津川市職員による生活体験. Photos showing staff participating in activities like fire cooking, equipment display, rope work, and field hygiene.

桃陵中学校生徒後による生活体験. Photos showing students participating in activities like basic training, commemorative photos, tent construction, and physical checks.

令和4年10月下旬、京都市立桃陵中学校の生徒18名と京都府木津川市の職員17名の方々に自衛隊での生活を体験していただきました。桃陵中学校の生徒の皆様には、基本教練や宿営用天幕の構築体験、体力検定、駐屯地の見学をしていただき、木津川市職員の方々には長地演習場において装備品展示、研修炊事(試食含む。)に引き続き大久保駐屯地において施設基礎作業及び野外衛生を体験していただきました。

編集後記. QR codes for home page and Twitter. Text: 大久保駐屯地広報紙「やましろ」読者の皆様、新年あけましておめでとございます。旧年中はご支援、ご協力、誠にありがとうございました。

第104施設直接支援大隊本部. 3等陸佐 井石 賢光. 退官 令和4年11月4日. 第3施設大隊本部管理中隊. 陸曹長 藤原 邦治. 退官 令和4年12月28日.

第307ダンプ車両中隊. 准陸尉 藤井 週司. 退官 令和4年10月25日. 大久保駐屯地業務隊補給科. 陸曹長 白井 寿治. 退官 令和4年12月17日.

大久保駐屯地業務隊総務科. 1等陸曹 白石 明. 退官 令和4年10月22日. 第3施設大隊本部. 准陸尉 川中 初男. 退官 令和4年11月13日.

定年退官者紹介